

「巣箱のへび対策(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今年のシジュウカラ巣箱には、昨年にも増して嚴重なへび対策を施しておいた。それでも心配だったので、地元の方に頼んで、へび除けの薬剤も数回に渡って散布してもらった。



特に、へびが必ず通るであろう、へび返しの板の端には、薬剤を「山盛り」にしてももらった。さすがのへびも、この「地雷原」を通過できるとは思えなかった。ちょうど私の山荘は、母屋で天井の工事をしていて、昼は工事の人の気配もあったので、余計にへびは近づけなかったようだ。ところが、工事が終わったまさにその晩、大事件が起きてしまった。



深夜に巣箱口から小さなへびが侵入してきたのだ。私は遠隔観測で気づいたので、すぐに地元の方に電話をしたのだが、深夜で危険だったので、駆除を依頼することはできなかった。結果、約1時間のあいだに、8羽のヒナのうち、成長の悪かった小さなヒナ4羽が次々と丸飲みになれ、犠牲になってしまった。



幸い、成長の良かった大きなヒナは難を逃れた。一度は飲み込まれそうになったが、巣箱に侵入できるへびは非常に小型のものだけなので、丸飲みをあきらめたように見えた。その後4羽は仲良く過ごしていた。



へびの侵入から4日後、4羽のヒナは無事に巣立っていった。兄や妹がへびに飲まれたことなんか、まったく覚えていないように見えた。



シジュウカラの親鳥は、ヒナが巣立ったあとも、しばらくは世話をする。この時も、クリの若木の枝にとまったヒナに、親鳥が何度も餌を運んでいた。しかし4羽の犠牲は大きい。私は「絶対にへびが侵入しない巣箱」の試作に着手することにした。